平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月7日

上場会社名　東邦化学工業株式会社　　上場取引所　東
コード番号　4409　URL　http://www.toho-chem.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 中崎　龍雄
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長　(氏名) 井上　豊　TEL 03-5550-3735

四半期報告書提出予定日　平成23年11月11日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	17,817	5.9	605	△19.7	397	△37.9	182	△40.9
23年3月期第2四半期	16,824	15.5	754	△29.1	639	△30.5	308	△43.2

(注)包括利益　24年3月期第2四半期　108百万円　(△24.2%)　23年3月期第2四半期　143百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	8.55	―
23年3月期第2四半期	14.46	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	41,193	8,110	19.5
23年3月期	38,610	8,130	20.9

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　8,049百万円　23年3月期　8,076百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	0.00	―	6.00	6.00
24年3月期	―	0.00			
24年3月期(予想)			―	6.00	6.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,900	6.1	1,250	△22.9	850	△36.4	440	△30.8	20.62

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	21,350,000 株	23年3月期	21,350,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	14,947 株	23年3月期	13,702 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	21,335,980 株	23年3月期2Q	21,337,061 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(参考) 個別業績

平成 24 年 3 月期の個別業績予想 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,100	4.6	890	△23.0	620	△32.9	320	△11.6	15.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 ： 有

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（５）セグメント情報等 …… 9
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間の我が国経済は、東日本大震災で被災した生産設備の復旧と寸断されたサプライチェーンの修復に伴い、生産活動は急ピッチで回復し、個人消費も自粛ムードの一巡後持ち直しに転ずるなど、景気回復の期待が高まりましたが、後半に入り、海外経済の減速が鮮明となり、また急激な円高が進行するなど、むしろ景気動向は厳しさを増しつつあります。下期以降も、復興需要による国内需要の拡大期待はあるものの、円の高止まりや海外経済の減速は、早急な改善は期待出来ず、当面は厳しい経営環境が続くものと予想されます。

当社グループにおきましては、被災により操業中止中であった鹿島工場（茨城県神栖市）が漸く５月中に復旧し、操業を再開いたしました。また、主要原料をはじめとする深刻な原料不足の事情から暫く生産調整を余儀なくされましたが、一部原料を除き６月末迄には解消し、生産活動も７月に入りほぼ正常化いたしました。

しかし、製品需要の方は、震災の影響や景気減速から回復の動きが鈍く、下期以降の懸念材料であります。

このような経営環境下、売上面は、原料不足の制約等により、石油樹脂や溶剤等が減収となりましたが、一方、土木建築用薬剤や電子・情報産業用の微細加工用樹脂は伸長いたしました。また、合成ゴム・ＡＢＳ樹脂用ロジン系乳化重合剤が、海外向けの販売が好調で大幅な増収となりました。その結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比９億92百万円、5.9％増収の178億17百万円となりました。

利益面は、原材料価格の上昇と生産調整による稼働率の低下により利益率が悪化し、大幅な減益となりました。その結果、営業利益で前年同期比１億48百万円減益の６億５百万円、経常利益で前年同期比２億42百万円減益の３億97百万円、四半期純利益で前年同期比１億26百万円減益の１億82百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

（界面活性剤）

トイレタリー用界面活性剤は、原料不足の影響から減産をしいられ、大幅な数量減となりましたが、原料高に伴う売価是正の影響により若干の増収となりました。プラスチック用界面活性剤は、主力の帯電防止剤は増加したものの、海外向けが落ち込み、減収となりました。土木建築用薬剤は、コンクリート用混和剤関連製品が堅調に推移し増収となりました。紙パルプ用界面活性剤は、ユーザー工場の震災被害による影響から減収となりました。農薬助剤は、海外需要向けが伸長し、増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比３億58百万円、4.1％増収の90億35百万円となり、セグメント利益は前年同期比２億４百万円減益の１億84百万円となりました。

（樹脂）

石油樹脂は、原料不足から減産を余儀なくされ大幅な減収となりました。樹脂エマルションは、フロアーポリッシュ用、鋼板用表面処理剤ともに低調に推移しました。合成樹脂も、断熱フォーム用ウレタン樹脂等が低調で減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比３億57百万円、17.6％減収の16億79百万円となり、セグメント損失は43百万円（前年同期はセグメント利益53百万円）となりました。

（化成品）

合成ゴム・ＡＢＳ樹脂用ロジン系乳化重合剤は、海外向け販売が好調で大幅な増収となりました。石油添加剤は脱ロウ助剤、潤滑油用等が伸長し増収となりました。金属加工油剤は切削油関連が振るわず若干の減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比10億93百万円、51.7％増収の32億７百万円となり、セグメント利益は、前年同期比１億６百万円増益の１億48百万円となりました。

（スペシャリティーケミカル）

溶剤は、自動車関連の減産影響からブレーキ液用溶剤が減少、ＩＴ情報関連向けや医薬品製造用向けも振るわず、大幅な減収となりました。アクリレートも、電子情報関連材料向けが第２四半期に入りユーザーサイドの在庫調整の影響で減収に転じました。一方、電子・情報産業用の微細加工用樹脂は、引き続き堅調に推移し増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比97百万円、2.5％減収の38億53百万円となり、セグメント損失は72百万円（前年同期はセグメント利益87百万円）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末の総資産は411億93百万円と前期末比25億82百万円の増加となりました。その内訳は、流動資産が18億51百万円の増加、固定資産が７億30百万円の増加です。

流動資産の主な増減要因は、現金及び預金が２億79百万円の増加、受取手形及び売掛金が91百万円の増加、たな卸資産が８億19百万円の増加です。

固定資産の主な増加要因は、有形固定資産が６億84百万円、投資その他の資産が44百万円の増加です。

一方、負債合計は、330億82百万円と前期末比26億２百万円の増加となりました。主な増加要因は、支払手形及び買掛金が８億49百万円の増加、長期借入金が10億18百万円の増加です。

純資産は、81億10百万円と前期末比19百万円の減少となりました。主な増減要因は、利益剰余金が、配当金の支払と四半期純利益との差額の54百万円の増加、その他包括利益累計額が80百万円の減少です。

その結果、自己資本比率は19.5％となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第２四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は45億65百万円となり、前連結会計年度末と比較して２億70百万円の増加となりました。

当第２四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は８億53百万円の収入（前年同期比26百万円の収入減）となりました。主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益３億41百万円、減価償却費８億65百万円、仕入債務の増加８億49百万円等であり、主なマイナス要因は、たな卸資産の増加８億14百万円、利息の支払額１億64百万円、法人税等の支払額１億56百万円等であります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は13億87百万円の支出（前年同期比22百万円の支出減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出12億19百万円等によるものであります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は８億４百万円の収入（前年同期比７億85百万円の収入増）となりました。主な要因は、長期借入れの純増額９億90百万円、配当金の支払額１億28百万円等によるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

第３四半期以降の経営環境につきましては、震災から復旧後の製品需要の回復の動きが予想外に緩慢であること、海外景気の減速や円高の国内景気への影響などから、当初予想策定時点よりも一段と厳しくなるものとみております。

その結果、平成23年５月27日に公表しました平成24年３月期の通期業績予想を、連結、個別ともに修正しております。

２．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,960	5,239
受取手形及び売掛金	9,212	9,303
たな卸資産	5,599	6,418
その他	599	1,261
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	20,367	22,219
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,036	7,070
機械装置及び運搬具（純額）	3,428	3,540
土地	3,319	3,319
建設仮勘定	1,200	985
その他（純額）	524	1,277
有形固定資産合計	15,508	16,192
無形固定資産	123	125
投資その他の資産	2,611	2,655
固定資産合計	18,243	18,973
資産合計	38,610	41,193

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,266	7,116
短期借入金	5,801	5,766
未払法人税等	176	87
賞与引当金	361	321
災害損失引当金	110	―
その他	2,545	3,487
流動負債合計	15,262	16,778
固定負債		
社債	4,800	4,200
長期借入金	7,132	8,150
退職給付引当金	2,941	2,913
役員退職慰労引当金	140	134
資産除去債務	54	55
その他	150	849
固定負債合計	15,218	16,303
負債合計	30,480	33,082
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	5,361	5,415
自己株式	△3	△3
株主資本合計	8,009	8,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	165	75
為替換算調整勘定	△99	△89
その他の包括利益累計額合計	66	△13
少数株主持分	54	60
純資産合計	8,130	8,110
負債純資産合計	38,610	41,193

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	16,824	17,817
売上原価	14,055	15,193
売上総利益	2,769	2,623
販売費及び一般管理費	2,015	2,018
営業利益	754	605
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	14	18
受取保険金	18	－
物品売却益	10	12
株式割当益	18	－
その他	21	17
営業外収益合計	85	50
営業外費用		
支払利息	154	166
手形売却損	12	12
為替差損	10	57
その他	22	22
営業外費用合計	199	258
経常利益	639	397
特別利益		
投資有価証券売却益	－	2
特別利益合計	－	2
特別損失		
固定資産廃棄損	9	4
投資有価証券評価損	66	－
投資有価証券売却損	－	1
災害による損失	－	52
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	15	－
特別損失合計	91	58
税金等調整前四半期純利益	548	341
法人税等	237	152
少数株主損益調整前四半期純利益	310	188
少数株主利益	1	6
四半期純利益	308	182

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	310	188
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△142	△90
為替換算調整勘定	△25	10
その他の包括利益合計	△167	△80
四半期包括利益	143	108
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	143	101
少数株主に係る四半期包括利益	△0	6

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	548	341
減価償却費	837	865
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	15	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	1	0
賞与引当金の増減額（△は減少）	△5	△39
災害損失引当金の増減額（△は減少）	－	△110
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△21	△27
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	2	△5
受取利息及び受取配当金	△16	△20
支払利息	154	166
投資有価証券売却損益（△は益）	－	△1
投資有価証券評価損益（△は益）	66	－
固定資産廃棄損	9	4
売上債権の増減額（△は増加）	△838	△85
たな卸資産の増減額（△は増加）	△18	△814
仕入債務の増減額（△は減少）	626	849
その他	151	31
小計	1,512	1,154
利息及び配当金の受取額	16	20
利息の支払額	△153	△164
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△496	△156
営業活動によるキャッシュ・フロー	879	853
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△8
有形固定資産の取得による支出	△582	△1,219
投資有価証券の取得による支出	△3	△112
投資有価証券の売却による収入	－	10
関係会社出資金の払込による支出	△823	△86
その他	△0	27
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,410	△1,387
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	264	△14
長期借入れによる収入	1,250	2,350
長期借入金の返済による支出	△1,337	△1,359
リース債務の返済による支出	△29	△43
配当金の支払額	△128	△128
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	19	804
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△519	270
現金及び現金同等物の期首残高	3,659	4,294
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,140	4,565

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自平成22年４月１日 至平成22年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	界面活性剤	樹脂	化成品	スペシャリティーケミカル	計				
売上高									
外部顧客への売上高	8,676	2,037	2,114	3,950	16,779	45	16,824	－	16,824
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	89	89	△89	－
計	8,676	2,037	2,114	3,950	16,779	135	16,914	△89	16,824
セグメント利益	388	53	41	87	570	16	587	166	754

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析および物流倉庫業務等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額 166百万円には、棚卸資産の調整額 153百万円等が含まれております。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	界面活性剤	樹脂	化成品	スペシャリティーケミカル	計				
売上高									
外部顧客への売上高	9,035	1,679	3,207	3,853	17,776	41	17,817	－	17,817
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	103	103	△103	－
計	9,035	1,679	3,207	3,853	17,776	144	17,921	△103	17,817
セグメント利益又は損失（△）	184	△43	148	△72	217	25	242	363	605

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析および物流倉庫業務等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額 363百万円には、棚卸資産の調整額 305百万円等が含まれております。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。